

○薬剤耐性菌に関するワーキンググループ（第31回）（Web会議）

日時：令和3年3月8日（月）10：00～11：52

議事概要：

（1）家畜に使用するスルホンアミド系合成抗菌剤\*に係る薬剤耐性菌に関する食品健康影響評価について

審議の結果、

○評価対象 ST 合剤等が、動物用医薬品として牛、豚及び鶏に使用された結果としてハザードである黄色ブドウ球菌又は大腸菌が選択され、牛、豚及び鶏由来の畜産食品を介してヒトがハザードに暴露され、ヒト用抗菌性物質による治療効果が減弱又は喪失する可能性は否定できないが、リスクの程度は低度であると考えた。

○薬剤耐性菌については、現時点では詳細な科学的知見や情報が必ずしも十分とはいえ、リスク評価の手法についても最新の知見を踏まえた見直しを随時行うことが重要と考えるため、国際機関における検討状況等を含め新たな科学的知見・情報の収集が必要である。

とすることが了承され、ST 合剤等の評価書（案）を一部修正し、スルホンアミド系合成抗菌剤単剤の評価書（案）と統合の上、食品安全委員会に報告することとなった。

（2）家畜等への抗菌性物質の使用により選択される薬剤耐性菌の食品健康影響に関する評価指針改訂の検討について

今後、評価指針改訂の検討を進めることとなった。

\* 動物用医薬品として家畜の肺炎、細菌性下痢症、原虫病等の治療及び鶏用の飼料添加物として使用されています。